

令和7年度 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

中間支援ギャザリング資料（中間支援振り返りシート）

活動テーマ

『陸の孤島の歴史が育むエネルギー自給を
中心とした地域循環共生圏づくり』

活動地域 : 北海道石狩市浜益区
活動団体 : 浜益地域循環共生圏推進協議会
「続ふかんば」
中間支援主体 : NPO法人ezorock

中間支援主体としての獲得目標と達成状況

■ 中間支援主体としての獲得目標 【R7年度当初目標】

- ①アクションサイクルを、関係人口と共に展開できるモデルづくりを行っていききたい。
中間支援機能を多様な関係人口が分散して担えるようになる姿を目指したい。
- ②専門家ではない若者が地域に関わることで地域の主体性が若者によって引き出されながら、共に学び、成長していくモデルをつくりたい。専門家の介入は最小限に、地域と関わる若者の主体性を引き出していききたい。
- ③写真など古い情報を元に地域住民と関係人口が混ざり、これからの地域を考えるモデルづくりを行い、他地域へ広げていききたい。

■ 中間支援主体としての獲得目標に対する振り返り（目標達成状況）

- ①活動団体「続ふかんば」が、今の浜益と約40年前の浜益（機関紙ネットワーキング浜益）を比較し、地域を深掘するnoteの記事作成は関係人口が担っている。また、大学の受入に関して地域内外のコーディネートを長年浜益に関わっている関係人口が担うなど、少しずつ様々な主体が自然と小さな中間支援機能を担うモデルが作られつつある。
- ②小水力発電設置を目的とした流量計測は関係人口である若者が、徐々にスキルを蓄積しながら実施した。全く関心、スキルのない若者が継続的に関わる中で、新たな関係人口に説明する場面も見られ、取り組みの中での成長を感じることができた。専門家との意見交換や、定期的なデータのフィードバックなども有効に働いたと感じている。
また、札幌の大学生が部活動指導を行う取り組みでは、公式サークルが立ち上がり、一過性ではなく後進を育てる仕組みづくりも行われている。実際の指導に加え日常的な練習メニューの提案など、専門性を持たない地元の若い教師に対しても刺激を与えている。
- ③実際に他地域でまちの歴史を切り口としたプログラムおよびワークショップを行い、住民の主体性が引き出される瞬間を多数見ることができた。引き続き、フォーマット化に向け検討する。

中間支援機能ごとの振り返り

チェンジエージェント機能		R7獲得目標（R7年度当初設定） 高めたい機能（◎/○）とその理由		現状の自己評価（R7年度末時点） 自己評価（◎/○/▲）とその理由	
変革促進	物事を整理する				
	意味づける				
	癒しとなる				
	見通しをつける	◎	地域ビジョン作成の道筋を立てる必要があったため	◎	地域ビジョンを作成するプロセスを住民と合意し、ビジョン策定にたどり着いた
プロセス支援	話を聞く				
	場を開く	◎	関係人口と地域住民の接点をより多く創出するため	○	関係人口の参画は促すことはできたが、住民との交流の場はもっと作れると感じているから
	喝を入れる				
	現在地を確認する				
資源連結	新しい人を入れる				
	事例を紹介する				
	引き出す				
	拡散する	◎	活動団体の大きな役割のひとつである歴史や自然環境についての情報発信を促進するため	○	noteでの発信のサポート等行ったが、より効果的な発信方法について検討する必要がある
問題解決提示	文字や図に落とす				
	問いを立てる	◎	ローカルSDGs事業の検証を進めるため	◎	資源調査の結果を受け、問いを更新しながら事業創出のための検証を行うことができた
	会議を進行する				
	落としどころを探る				
その他	※必要に応じて追加				

今後の中間支援主体のありたい姿

■ 中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献

【R7年度当初目標】

地域運営組織や小規模多機能自治といった地域循環共生圏との関連のある動きに対して、地域の中だけでは若者のマンパワーが不足してしまう。北海道において、地域の主体性を引き出しながら、双方向に学びが生まれるような関わりを作れる中間支援主体として発展したい。

そのためのノウハウとして下記の取り組みを地域に関心を寄せる若者と共に進められる技術を身に着けたい。

①「現在」(いま)を知る「集落の教科書」制作ワークショップ→すでに浜益区にて実施済み

②「過去」を知るワークショップ→本事業にて検討中・モデル作成

地域の過去の取り組みや資料、写真を元に、昔のまちづくりに若者が注目。取材、収集・整理などを通して、時代背景やその地域の成り立ちに関心を寄せる体験型ワークショップを確立、各地で提供できるように。→若者にとっては地域を知る機会に、地域にとっては、取り組みを通して、その地域を再評価しつつ、今の時代に残す必要のあるものを見つける

③「未来」を考える「地域ビジョンづくり」ワークショップ→本事業にてモデル作成

集落の教科書及び過去を知る資料収集ワークショップによって集められた情報を元に、未来を考える地域ビジョンづくりを進める対話の場づくりを進める

④これらの基礎情報を元に、持続可能な地域を推進するための市民による自主的な取り組みのプロジェクトの立ち上げ

⑤各プロジェクトを推進していくための伴走支援及び活動への若者が参加する機会の創出

■ 地域づくりに貢献していくために、今後、どうなりたいか

目指す姿	目標達成に向けた、次年度の行動	チェンジエージェン ト機能での分類
アクションサイクルを、関係人口と共に展開できるモデルづくりを行っていきたい。専門家ではない若者が地域に関わることで地域の主体性が若者によって引き出されながら、共に学び、成長していくモデルをつくりたい。	さっぽろ圏からの関係人口を送り出すと共に、大学との協働プロジェクトを推進し、主体的な地域外のリソースを活用できる状態を目指す。また、関係人口受入のためのマニュアル作成など、体制の変化にも耐えうる仕組みづくりを支援する。	資源連携 引き出す

今後の中間支援主体のありたい姿

■ 地域づくりに貢献していくために、今後、どうなりたいか

目指す姿	目標達成に向けた、次年度の行動	チェンジエージェン ト機能での分類
写真など古い情報を元に地域住民と関係人口が混ざり、これからの地域を考えるモデルづくりを行い、他地域へ広げていきたい。	今年度実施できた他地域の事例を、浜益内で再度試行するなど、浜益内外で取り組みを行き来させて、ブラッシュアップさせていく。特に、地域環境の違いなども考慮し、それぞれの地域の独自性と汎用性を見極めたい。	変革革新 物事を整理する
中間支援組織も地域の担い手の一部となる、過疎地域での中間支援のモデルとして活動や実績の取りまとめ、発信を行いたい。	他地域での事例を検証すると共に、専門家等も交えた意見交換を行い、モデルの確立を目指したい。	変革革新 見通しをつける

■ 地域づくりに貢献していくために、外部地域や関係者と連携や協力したいこと

- 勉強会や「いっぺかだれやの会」で実際に浜益で活動する関係人口が活動報告や意見交流を行うことで、自然に地域内で自然環境に関する話題が増える状態を目指す。
- 再生可能エネルギーに関する事業の具体化を目指すことで、地域内外に対しモデルとなり、地域資源の再認識に繋げる。
- 地域運営組織など他分野との連携や意見交換を重ね、地域循環共生圏の良さを発信しつつ、他事例（地域）から活用できるものは活かしていきたい。
- 中間支援機能を他地域へ広げていくための実績の取りまとめや発信情報の方法については、アドバイスをいただきたい。